

作品発表

「心を浮かべて2015」

With Mind Released

林 亨

北翔大学教育文化学部芸術学科

今回掲載した作品は、2016年3月10日（火）－3月31日（火）にポルトギャラリーで開催した展覧会「Songlines：メデイウムが光と出会うとき」に出品したものである。この展覧会は、本研究グループの成果報告展であるが、本研究員でインデペンデントキュレーターの塚崎美歩氏による企画展覧会として開催している。

この展覧会のキーワードは「Songlines¹⁾」である。「Songlines」は、口承によって世界のことが語り継がれていた、オーストラリアの創世期にあったとされる神話に出てくる目に見えない道のことで、オーストラリアの大地に迷路のように伸びていて、アボリジニの人々は、そこで出会う鳥や獣や植物など、あらゆるものを歌いながら世界を創り上げていったという話の中に登場する。アボリジニに歌われることでその道の途中には幾万の聖地が現れるとされるものである。「見えない道」「歌」「聖地」など、これまで筆者が制作テーマにしてきたキーワードにつながるものばかりである。これまで、塚崎氏の設定する展覧会コンセプトは、筆者にとって、作品を次のステップに展開させる上で大きな道しるべとなる場合が多くあったが、今回はとくに強く感じた。本誌前号に記載した作品に通底するテーマだった「水」「移動」「光」について、水が流れて道になり、その道を移動しながら歌い、ついには光に満ちた空間が聖地化する。たとえば、そういうありきたりなストーリーが見えても、深遠なイメージを喚起する今回のコンセプトは、同時に展示した二人の作家²⁾の作品とのコラボレーション効果も誘発し、とても優れたものであると考える。

具体的な制作方法について少し記す。

材料や技法は、大きく変わっていない。綿キャンバスにアクリル絵具である。技法の特徴を簡単に言うと、前作同様、重ね塗りやブラシストロークに重点を置いたことである。しかしこの作品の最大の特徴は、具体的なイ

メージ表現である。結果的には、判然としないものになったが、別の展覧会³⁾で制作したインスタレーション作品のイメージを写実的に描いている。その作品は、野外に展示したインスタレーション作品で、古く朽ちかけたジャングルグローブ⁴⁾にラッピングして色を塗ったものであるが、ジャングルグローブに今回のサブタイトルである「みずぶくろ」のイメージを重ねたものである。制作工程の最後にはその上に、ブラシストロークの痕跡を残しながら全面的に色を塗り重ねたが、画面の印象としては、埋もれてしまうイメージと、わき出てくるイメージの両面を表現しようとした。その意図が伝わるかどうかは、見る人にゆだねるつもりであったが、当初2枚のキャンバスを繋げて一枚の作品空間として描き進めていたものを、途中から2枚に分けて、さらには色も大きく変え並べて展示し、その両面性を際立たせることにした。

聖地を繋ぐ見えない道「Songlines」を覆うものが水とすれば、ジャングルグローブの「みずぶくろ」とどこかで繋がっている。最終的に、この2枚の作品は、ある世界の陰と陽を表す2曲の音楽（うた）となることを期待している。

注

¹⁾ 『ソングライン (series on the move)』ブルース・チャトウィン (著) 北田絵里子 (翻訳) 2009 英治出版を参照

²⁾ 本研究グループ研究員の大井敏恭氏と末次弘明氏

³⁾ 「ハルカヤマ藝術要塞2015」小樽市で開催された野外展。

⁴⁾ 公園などに設置される遊具。地球儀型の回るジャングルジム。

(本研究は、ポルト研究の助成を受けて実施された。)

心を浮かべて With Mind Released

林 亨



心を浮かべて〈みずぶくろ04〉キャンバスにアクリル 130×162 2015-2016
With Mind Released (water mass 04) acrylic on canvas 130×162cm 2015-2016



心を浮かべて〈みずぶくろ05〉キャンバスにアクリル 130×162 2015-2016
With Mind Released (water mass 05) acrylic on canvas 130×162cm 2015-2016